



自分らしさを大切に

吉田 真己

(八峰町地域おこし協力隊)

1 八峰町の紹介

八峰町は秋田県の北西部に位置し、東は白神山地、西は日本海、南は能代市、北は青森県に接する自然豊かな町です。平成18年に漁業が盛んな八森町と農業が盛んな峰浜村が合併して新たに誕生し、現在は約6,300人が暮らしています。

高齢化が進み、どの分野でも担い手不足が課題となっていますが、熱い思いを持つ若者達が各分野で活躍しており、ハタハタ漁やサーモン養殖、菌床しいたけ、生薬、梨の栽培等が盛んで、自然環境に恵まれた地域ならではの特産物が多くあります。また、白瀑神社で行われるみこしの滝浴びや、石川地区で行われる石川駒踊り等、昔から大事にされてきた郷土の行事が現在も継承されています。

こちんまりとした町ではありますが、子ども達が遊べる遊具のある施設やリフレッシュできる温泉、世界遺産の白神山地を間近で感じられる散策・登山コース等もあり、町内外の方が気軽に楽しめる町です。



(カミツレ(カモミール)の畑)

2 八峰町を選んだ理由

私は青森県青森市出身で、令和3年7月に福岡市から八峰町に移住しました。福岡では地方公務員として勤務していましたが、「自分らしく生きたい」、「誰かの役に立つ仕事がしたい」という気持ちから転職を決意しました。

転職先、移住先を八峰町に決めるきっかけとなったのは、姉からの提案です。姉は10年程前に夫婦で八峰町に移住し、農業を営んでいます。転職に関する相談をしたところ、地域おこし協力隊という職業を知ることとなりました。地域の方と積極的に関わり、直接的に力になることができそうな業務内容に関心を持ち、さらに、落ち着いた静かなまちで暮らすことにも魅力を感じたことから、八峰町で地域おこし協力隊になることを決めました。

3 これまでの活動

○定住移住コンシェルジュ

八峰町への定住移住促進活動をすることが、私の協力隊としてのミッションです。これは、単に「八峰町に住んでください」と呼びかけるだけで解決するような簡単なものではありません。そのため、まずは八峰町をより多くの方に知ってもらうことから始めることにしました。具体的には、町の様々な場所へ出向き、衣食住などの日常に関連すること、娯楽となるイベントや名所、そして働くことに直結する企業や仕事について取材、情報収集を行い、その内容をSNSを使って発信しています。

私が情報発信をするうえで大切にしていることがあります。それは、自分自身が町を知り、地域の方々を知り、つながりを構築していきながら、八峰町の良さを発信するという事です。そのため、取材をする際はただの傍観者にならないことを心がけています。相手と同じ目線で輪に入り、一緒に楽しむ経験を共有しながら取材をします。実際に、子ども園のいも掘り体験や小学校での田植え体験行事では、子ども達と共に土だらけ、泥だらけになりながら一緒に体験をしました。また、日常的に健康クラブや自治会のサロンに顔を出し、一緒に体操したり、お茶を片手にまったりおしゃべりしたりもします。このように地域の方々と密接に関わっていくことで、発信する情報がリアルで濃いものになっていると思います。

また、移住を希望する方に対するサポートはもちろん、実際に移住、転入してきた方が不自由なく暮らせるためのサポートも積極的に行っています。自身が移住者だからこそ気付くことのできた、この地域ならではの情報をまとめてパンフレットを作成したり、町の暮らしに役立つ場所を案内するサービスも行っています。

さらに、「町での楽しみが増えると、それが定住につながるのではないか」という考えから、地域の方に楽しんでもらえるイベントの企画、開催に力を入れています。

○特技を活かした活動

私は大学時代の3年間を韓国で過ごしました。韓国の大学を卒業し、外国人に韓国語を教えることのできる免許を取得したため、韓国語や韓国文化を教える講座を定期的で開催しています。これまでに30名程の方に受講していただき、講座終了後も個人レッスンを希望して学習を継続している方もいらっしゃいます。また、韓国

の料理やお菓子を作るイベントも定期的で開催しており、幅広い年齢の方にご参加いただいています。

八峰町は韓国と特別関係があるわけではありませんが、実際に地域の方から「なぜ八峰町に関係のない韓国の知識を広めようとするのか」というご意見をいただいたこともあります。しかし、地域には韓国文化、特に韓国ドラマやK-POPに関心のある方が多く、語学や文化に触れたいと考える方も少なくありません。自分の知識や経験がそのような方の役に立てるのであれば、私は自分の特技を活かしたこの活動に意味があると思っています。



(韓国語講座)



(ペペロ(韓国のお菓子)作りイベント)

○半農半X

八峰町では半農半Xに関連した事業を行っています。これは、リモートワーク等で場所に縛られずに自身の仕事ができる方が2週間八峰町に滞在し、農業漁業等現地でのアルバイトと本業を両立させるというプログラムです。

私は令和3年の開始時からこの事業に携わっ

ています。主な業務は、参加者が八峰町でより良い暮らしをするためのサポートです。町を案内して魅力を伝えたり、イベントを開催して盛り上げたり、アルバイト先に応援に行ったりと、より多くの方に八峰町のファンになってもらえるよう活動しました。町の魅力を町で実際に直接伝えられる機会は貴重であり、また、八峰町に関心を持ってプログラムに参加して下さることはとてもありがたく、参加者との関わりを大切にしたいと思い、一人一人に寄り添った対応をするよう心がけました。

プログラム終了後、参加した方々が八峰町を将来的な移住地の候補にしてくださったり、定期的に旅行で訪れてくださるようになったりと、この町を好きになってもらえたことを実感しています。また、参加者の方は職業や経歴、趣味や特技も様々です。面白くて勉強になるお話を聞き、広い世界を知ることができたのも、自分にとってプラスになりました。プログラムの終わりとともに参加者の方々と関係を終わりにするのではなく、これからもこのご縁を大切に参加者の方々と関わっていきたいと思っています。

○横のつながりを活かした活動

協力隊活動をしていく中で、近隣市町村の協力隊員と地域を越えたつながりができました。地域を盛り上げたいという気持ちは協力隊共通であり、地域の枠を越えて連携したり共に活動したりすることで活動の幅を広げることができるため、私はこのつながりを大切にしています。

これまでには、それぞれの市町村や協力隊員の魅力、強みを活かしてイベントや講座を実施しました。各地域の特産物を使った商品を考案し、販売することで地域の魅力を再発見してもらう機会を提供したり、隊員同士の共通する経

験を活かした内容の講座を開催しました。自分一人では難しいことを一緒に成し遂げてくれる心強い仲間に出会えたことは幸運なことです。職場の同僚とは異なる、仲間という存在ができたことはとても嬉しく、彼らとは今後もつながりを継続していきたいと思っています。



(県北市町村協力隊員との合同イベント 中央が私)

4 これから

協力隊員としての任期も残り1年を切りました。私はこれまで数年ごとに居住地を変えてきたため、正直なところ、当初は任期終了後も継続して八峰町に定住する自信はありませんでした。しかし、八峰町での生活を続ける中で、ここに住むことが当たり前となり、今は他の地域に移り住みたいという気持ちはありません。いつのまにかこの町が私にとって居心地の良い場所になっていたようです。

前半でお話したように、私は「自分らしく生きたい」、「誰かの役に立つ仕事がしたい」という理由でこの町に来ました。八峰町での暮らしの中で、これを叶えられているのだと思います。自分のやりたいこと、挑戦したいことを応援して下さる周囲の方々に支えられていることも日々実感しています。また、これまでよりも自分に正直に、素直に生きることができるようになりました。これは町の方が私を理解し、受け入れてくださったおかげです。

私はこれからも、たくさんの魅力が詰まったこの町で自分らしく生きていこうと思います。